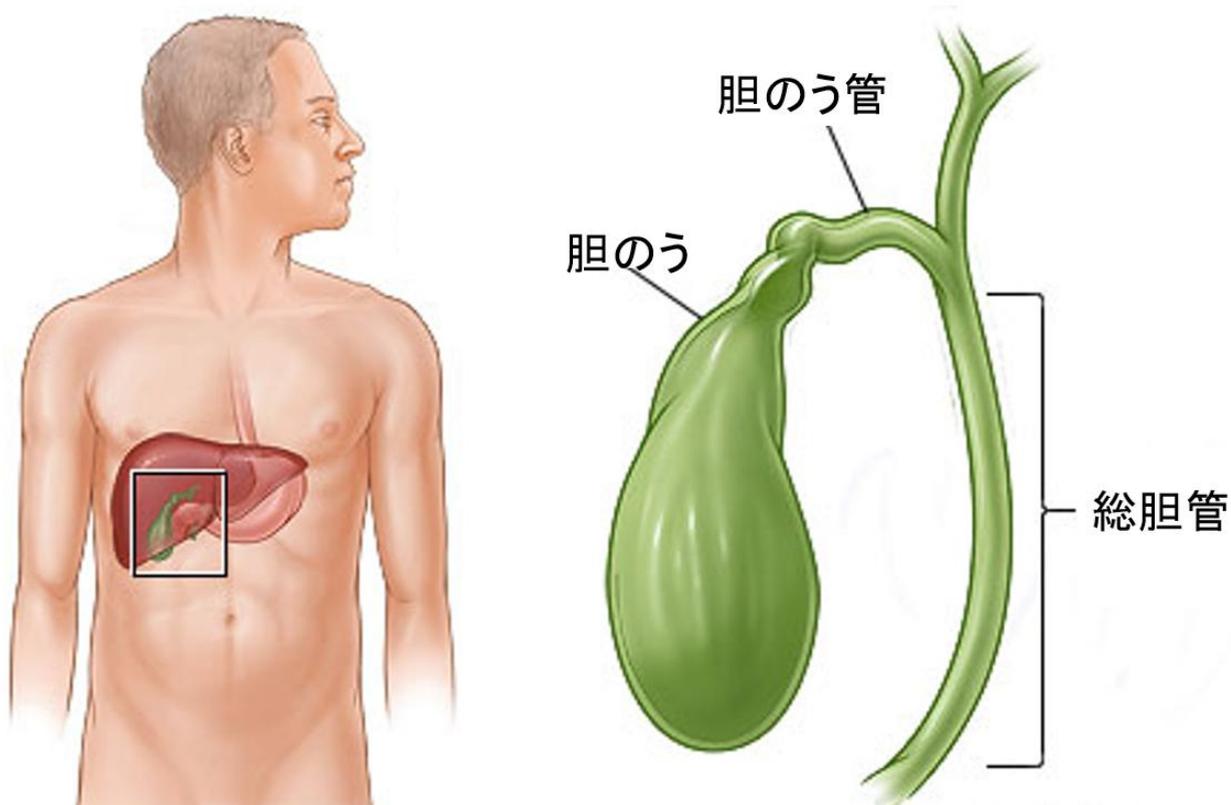
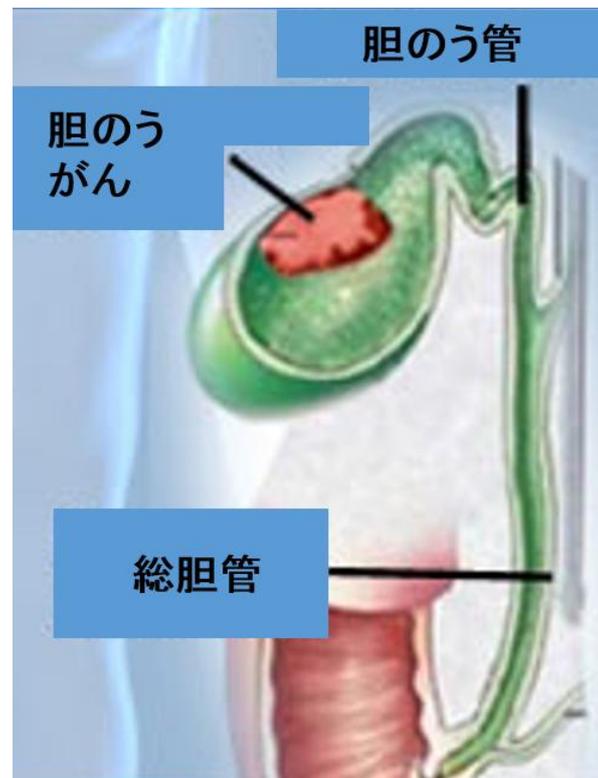


QA 胆のうがんについて

胆のうがんは予後が悪いため、
早期診断が最も大事な癌の1つです。



胆のうがんは60歳台に最も多く、やや女性に多いがんです。



＊＊ 症状は？

胆のうがんは初期の段階では無症状です。進行するにつれて以下のような症状が出てきます。

1) 腹痛

みぞおちや右脇腹に痛みが出ることがあります。



2) 食欲低下、体重減少など

がんの進行に伴い、出てくる症状です。
長く続く場合は医師にご相談ください。



3) 黄疸（おうだん）

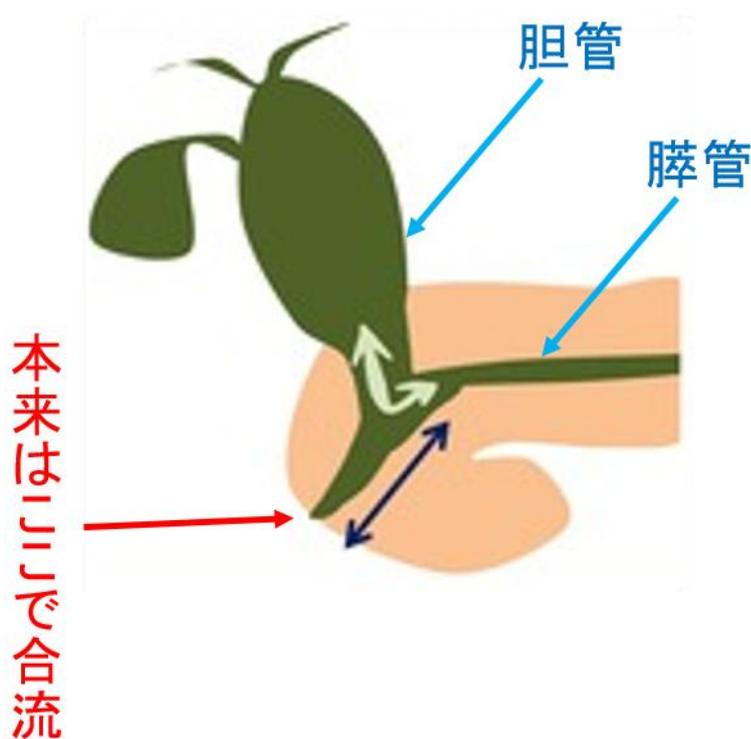
がんが進行してくると黄疸が出ることもあります。皮膚や目の白い部分が黄色くなります。白色便、褐色尿、皮膚のかゆみなども同時にあらわれます。



＊＊ 胆のうがんの危険因子として、以下のものが知られています。

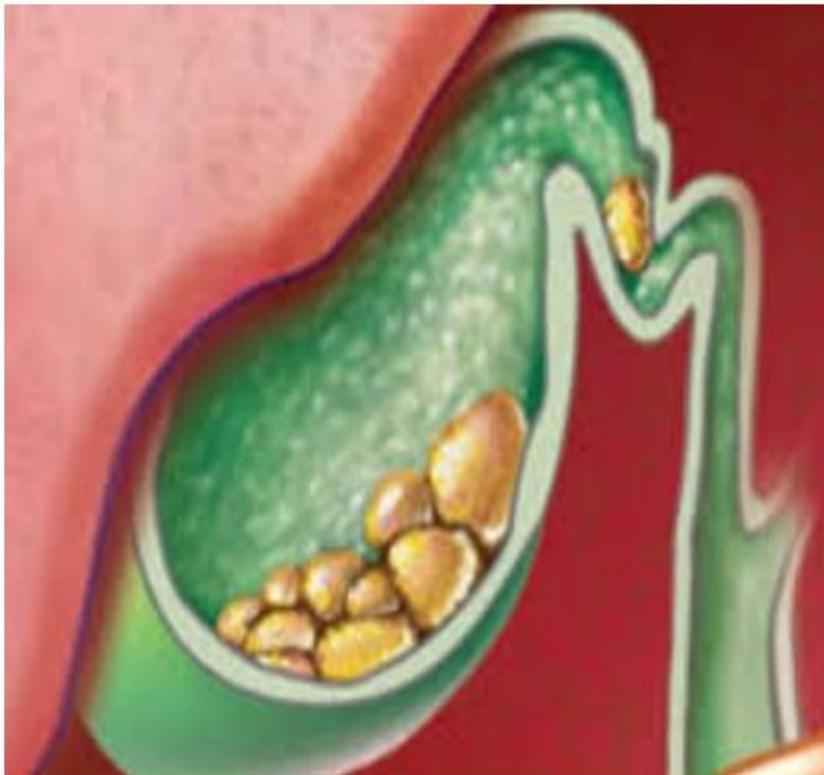
・ 膵・胆管合流異常

膵管と胆管が十二指腸の手前で合流する先天性奇形です。胆のうがんを合併する頻度が20-30%と、正常人に比べて高率となっています。



・胆石症

胆嚢がんの 50~60%に胆石の合併を認め、また胆石症の 2~3%に胆嚢がんを認めます。



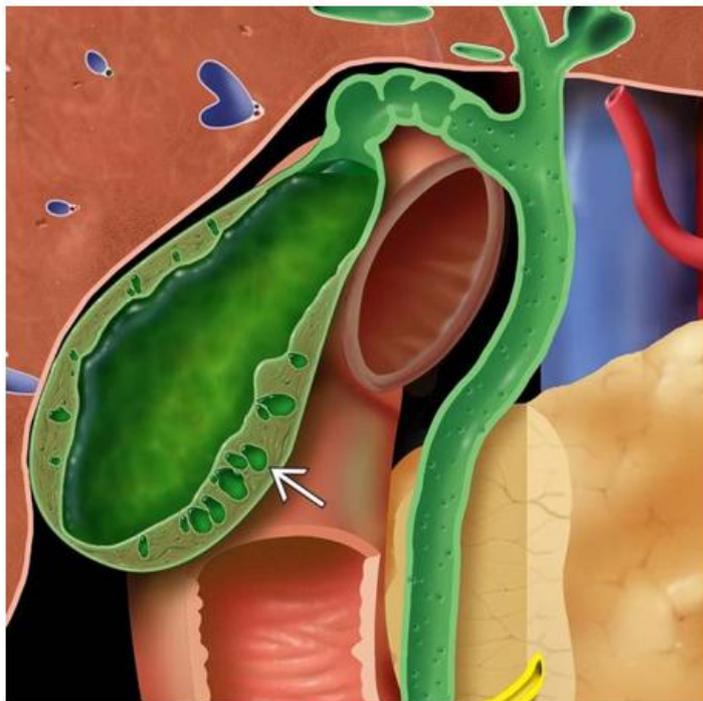
・胆のうポリープ

ポリープが 10mm 以上かつ増大傾向を認める場合、あるいは大きさに関わらず広基性（粘膜の表面からなだらかに隆起している）である場合、胆のうがんの可能性が高くなります。



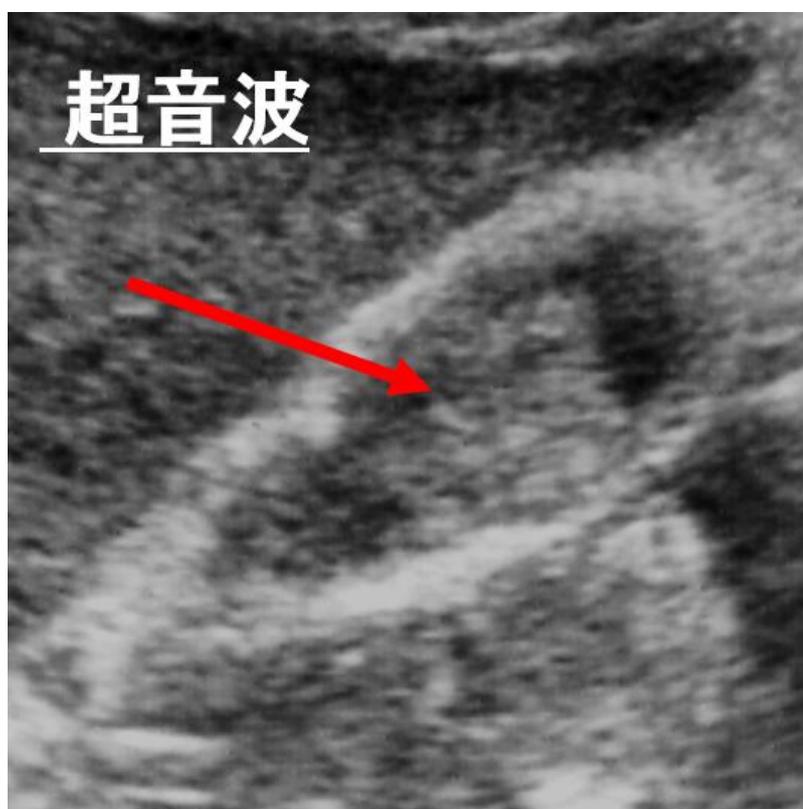
胆のう腺筋症

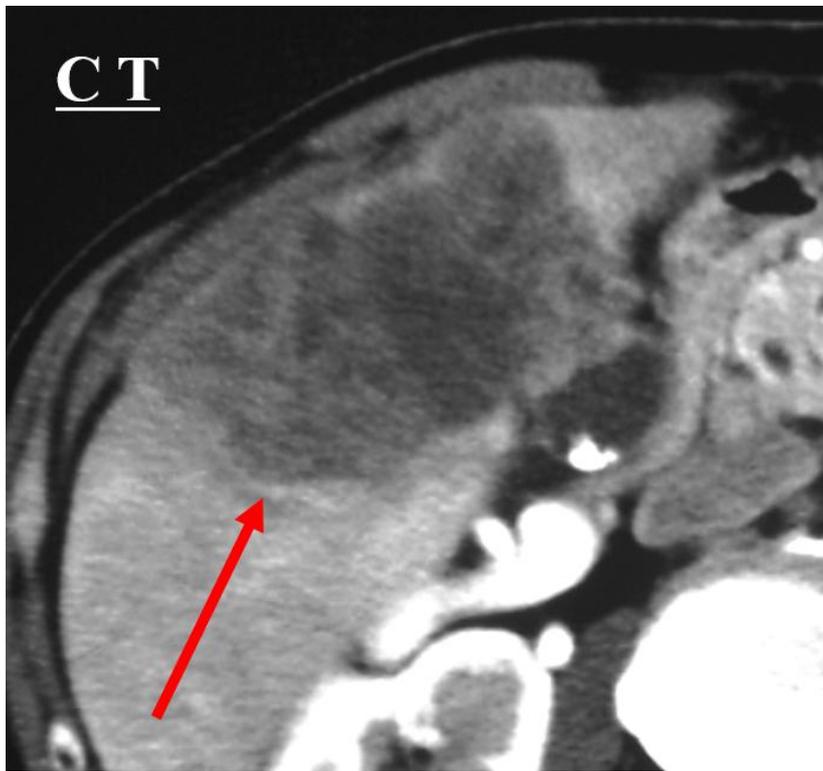
胆嚢壁の肥厚を特徴とする病変で、胆嚢の粘膜上皮が胆嚢壁の筋肉の層にまで袋状に嵌入した Rokitansky-Ashoff 洞 (RAS) と呼ばれるものが増生した病態。昔から胆のうがんとの関連が疑われています。



** 診断は？

診断は超音波検査が第一選択となります。精査のための画像診断としてCT、MRIなどを行います。





** 治療は？

治療は、外科的手術が最善です。

抗がん剤による治療は、効果が限られています。

| がんの種類 | ステージ | 5年生存率(%) |
|-------|------|-----------|
| 胆嚢 | I | 90.10% |
| | II | 74% |
| | III | 41.90% |
| | IV | 5.4~24.0% |

👉 胆のうがんは予後が悪いため、
早期診断が最も大事な癌の1つです。

